

少子高齢化社会における、 これからの 結婚観と家族観

ひょうご震災記念21世紀研究機構

主任研究員 永田夏来

<http://www.n-nagata.com>

家族イメージ

現代の典型的「家族」



1895年ギリシャ人の一家



近代家族

- 社会が近代化していくにしたがって増加したスタイルの家族
- 夫は外で働き妻は家庭を守るという性別役割分業
- 夫婦と未婚の子からなる核家族世帯
- 家族同士の情緒的なつながりを重視している



*働く子ども イギリス19C頃



*乳母管理局 18~19Cフランス 都市部の家庭の子どもと農村部の乳母とを媒介

社会の近代化(イメージ)

前近代社会:

- ・職住の一致
- ・伝統と慣習
- ・人口が固定

公私が未分化な状態

伝統的家族

近代社会:

- 職住の分離
=公私の分離
- ・合理性と選択性
 - ・人口の流動化

公領域(市民社会)

近代家族



近代家族 中流階級の友愛家族(1780年頃) 教養のある下層中流階級の子ども(1809年)



労働者階級の近代家族 19世紀中ごろ

日本における戦前の家族と戦後の家族

旧民法の家制度

戸主権

- 婚姻・養子縁組に対する同意権
- 入籍又は去家に対する同意権
- 居所指定権
- 家族が戸主の同意なしに居所を定めた場合や婚姻・養子縁組した場合の家籍排除権

家督相続権

日本国憲法 第24条

1. 婚姻は、両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない。
2. 配偶者の選択、財産権、相続、住居の選定、離婚並びに婚姻及び家族に関するその他の事項に関しては、法律は、個人の尊厳と両性の本質的平等に立脚して、制定されなければならない。

現在の家族は新しい家族か？



人口学的移行期世代

1925年 ～ 1950年生まれ

(大正14年～昭和25年)

(昭和ひとけたから団塊の世代)

= 多産少死世代

→ 就職、結婚、出産等を経験した時期

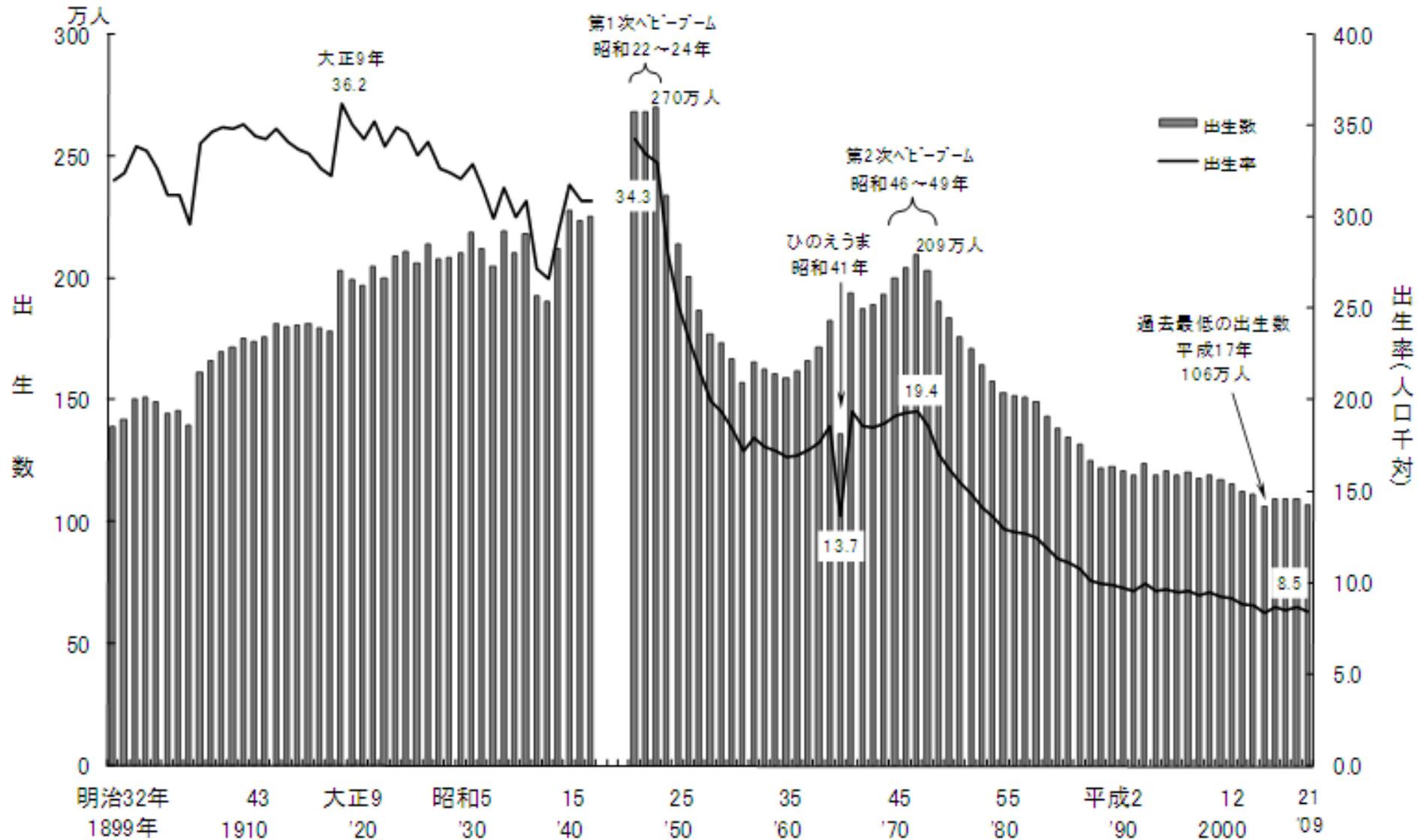
1950年代 ～ 1970年代

(昭和25年～昭和50年頃)

(家族に変化)

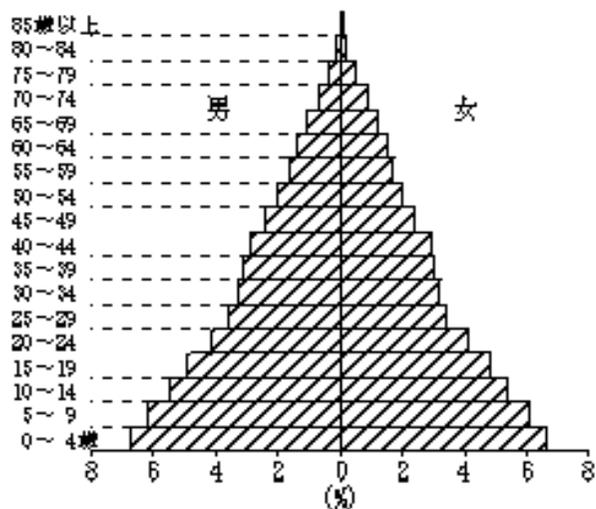
出生数・出生率(人口千対)の年次推移

—明治32～平成12年—

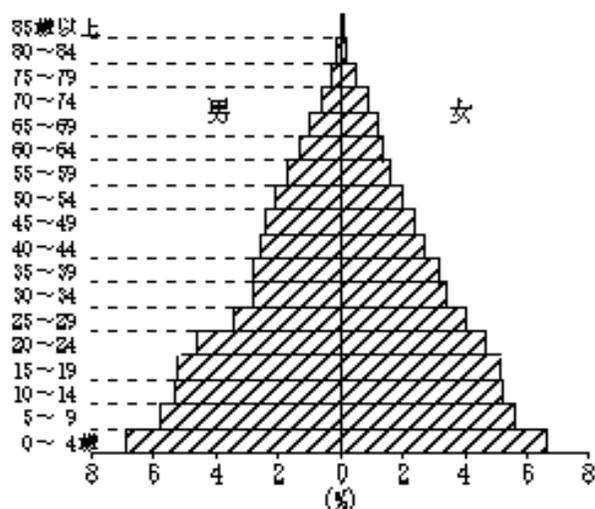


戦前からの我が国の人口ピラミッド

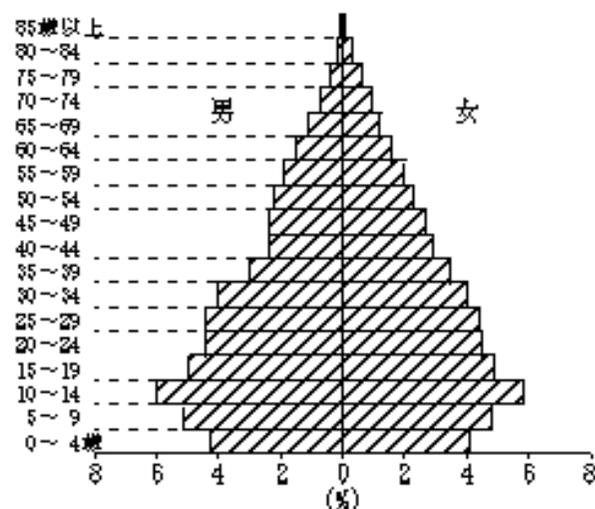
大正9年（1920年）



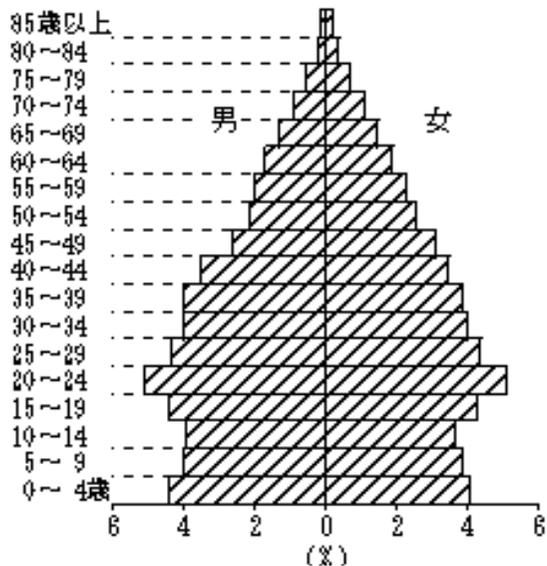
昭和25年（1950年）



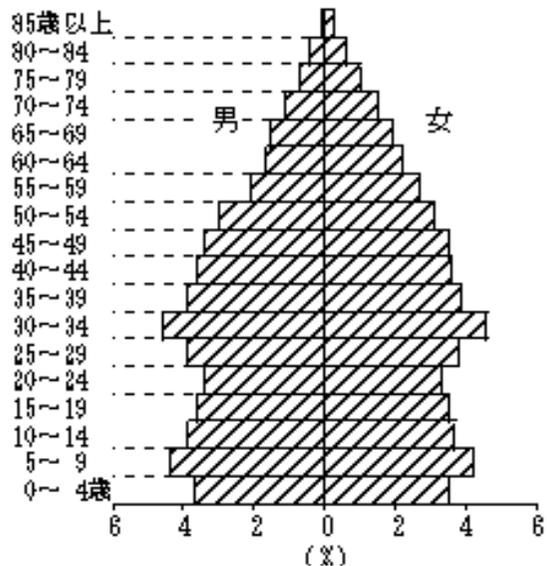
昭和35年（1960年）



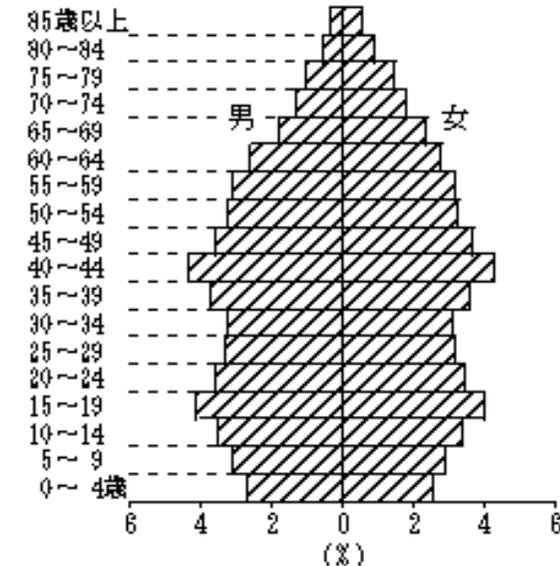
昭和45年（1970年）



昭和55年（1980年）



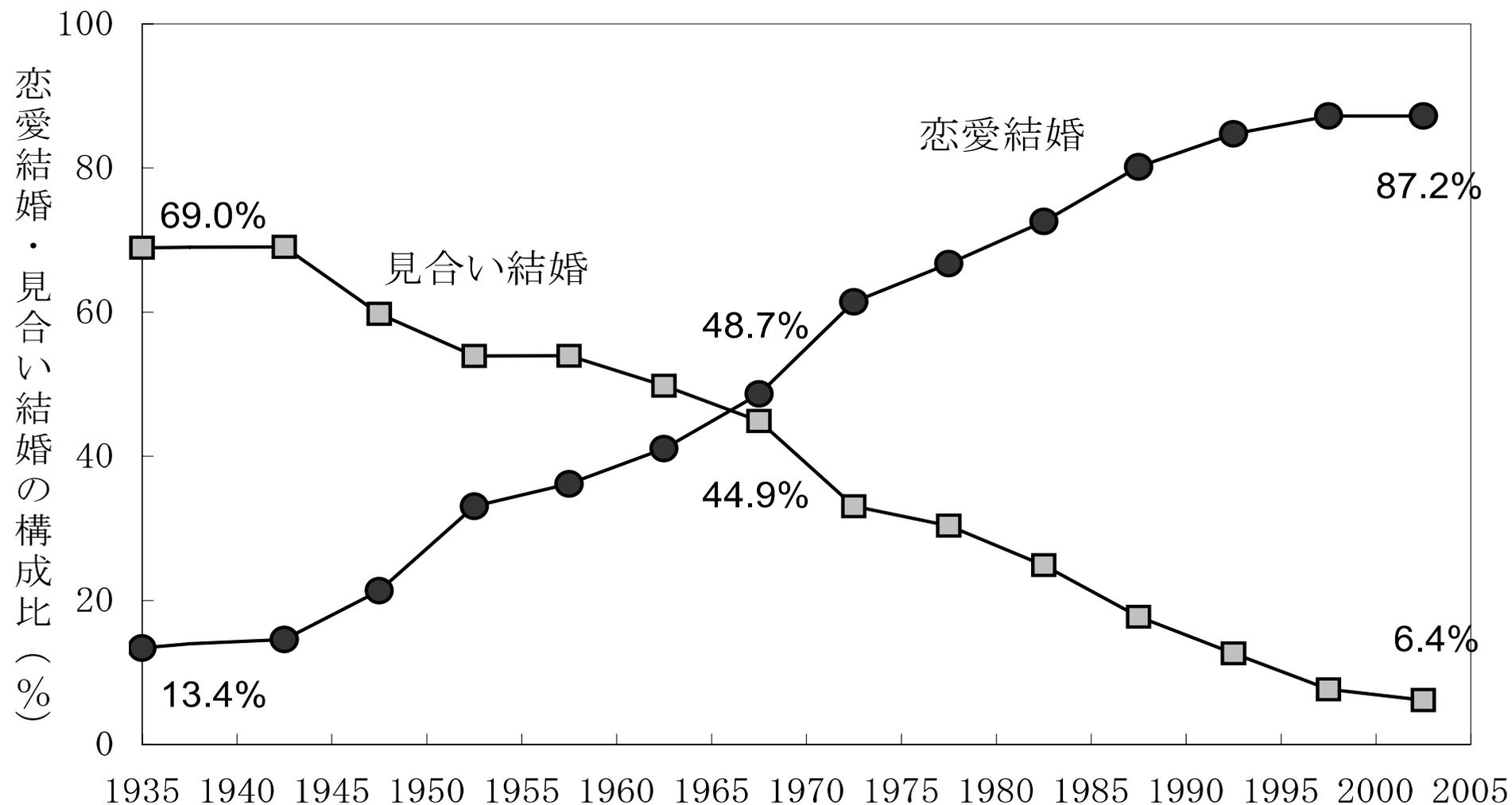
平成2年（1990年）



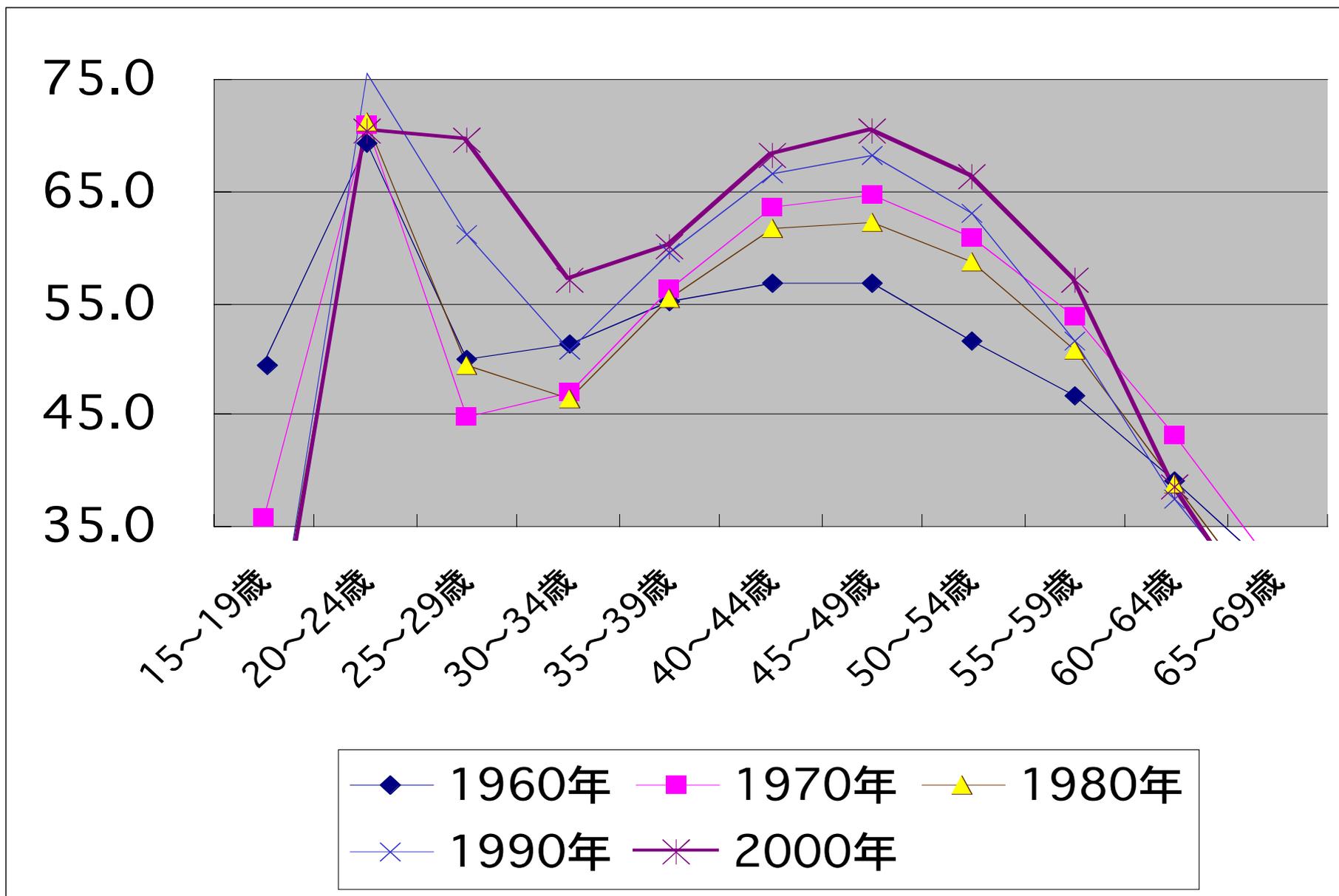
人口学的移行期世代の特徴

- 田舎から都会に出てきて雇用される(サラリーマン化)
 - 恋愛結婚の増加
 - 専業主婦の増加
 - 親世代よりも子世代の方が一般に社会階層が高い
 - 終身雇用、年功序列により生活の見通しが立てやすい
- 結婚しやすい社会

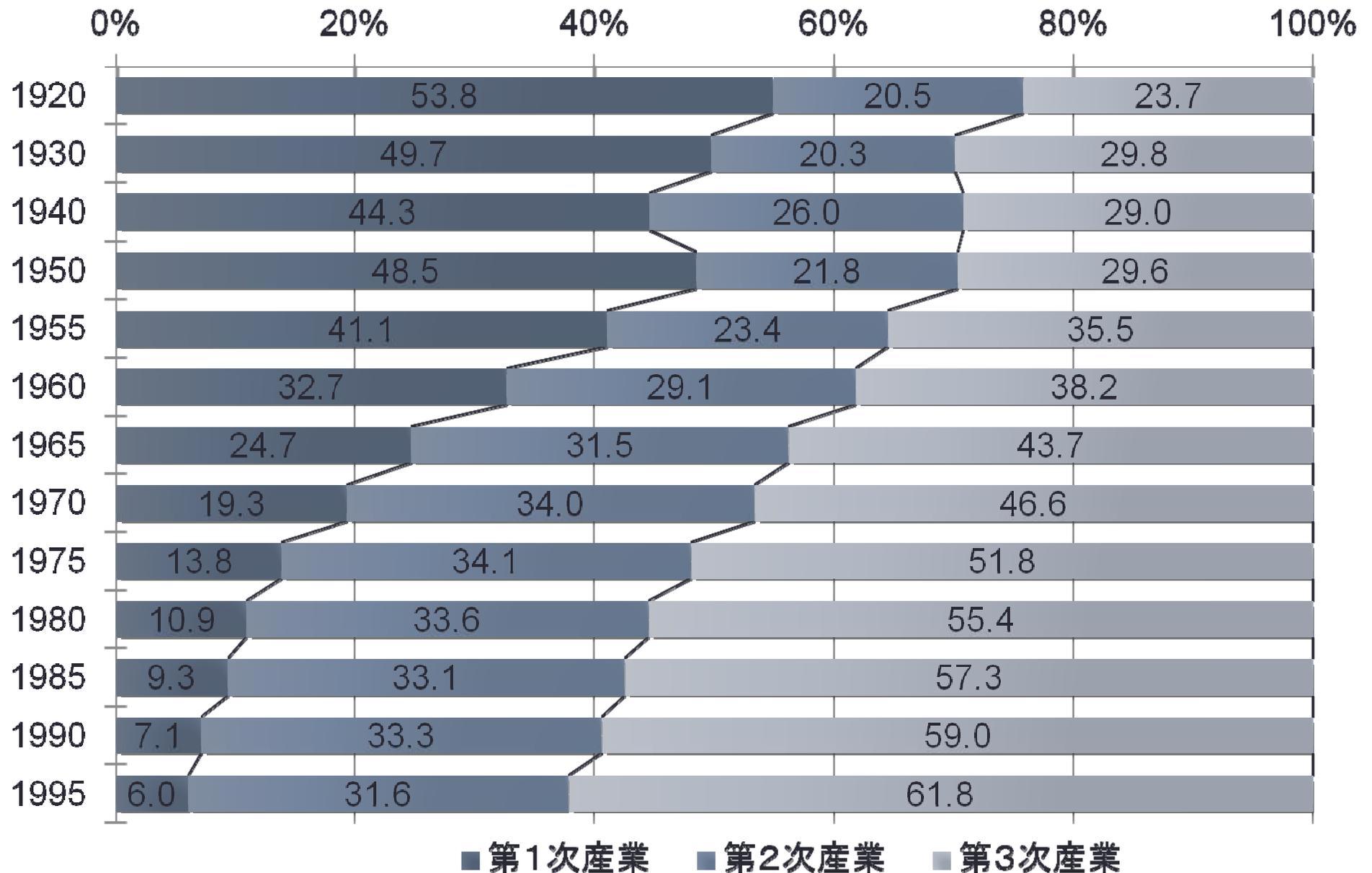
結婚年次別にみた 恋愛結婚・見合い結婚構成の推移



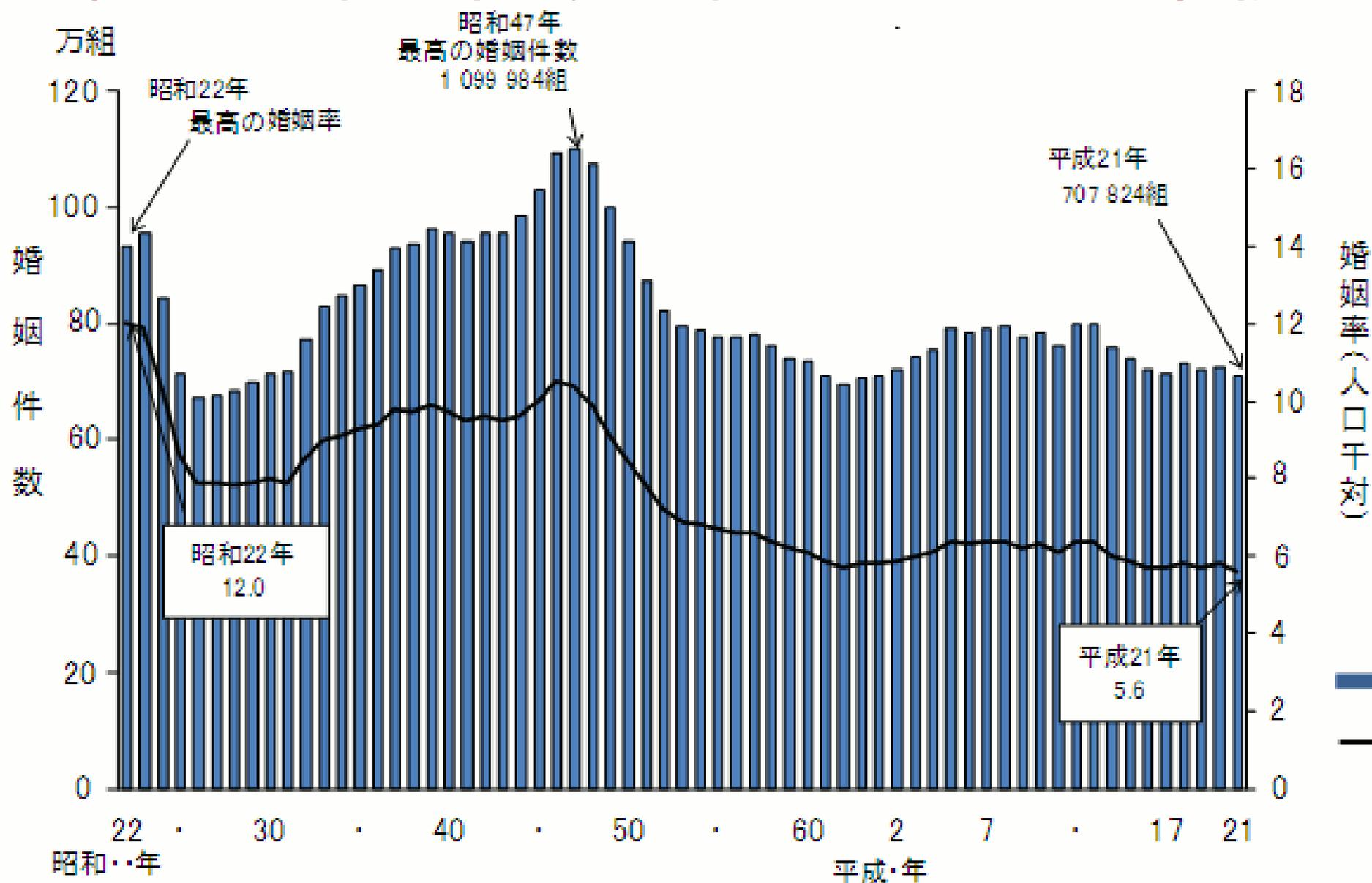
女性の年齢階級別労働力率の年次推移



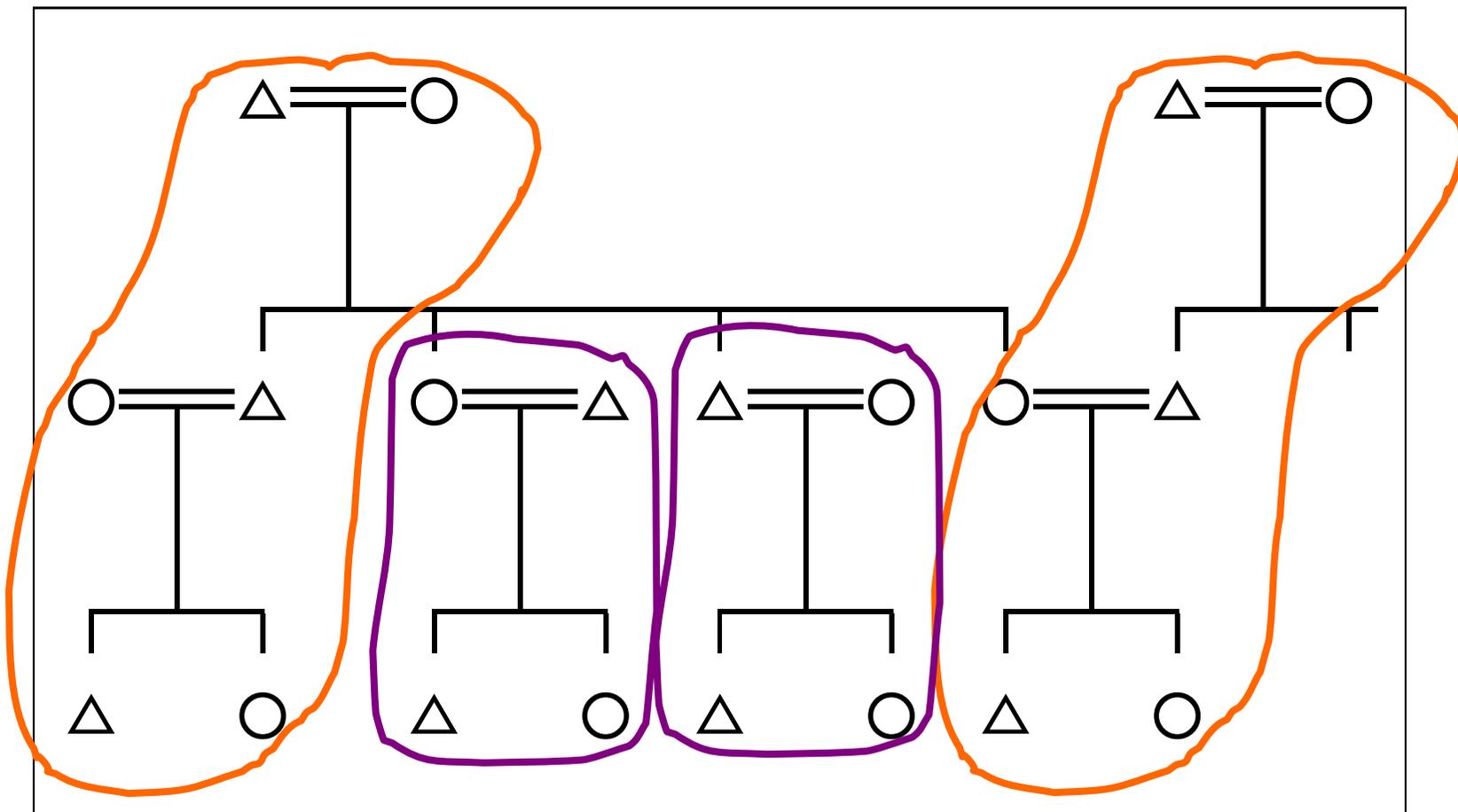
産業構造の転換



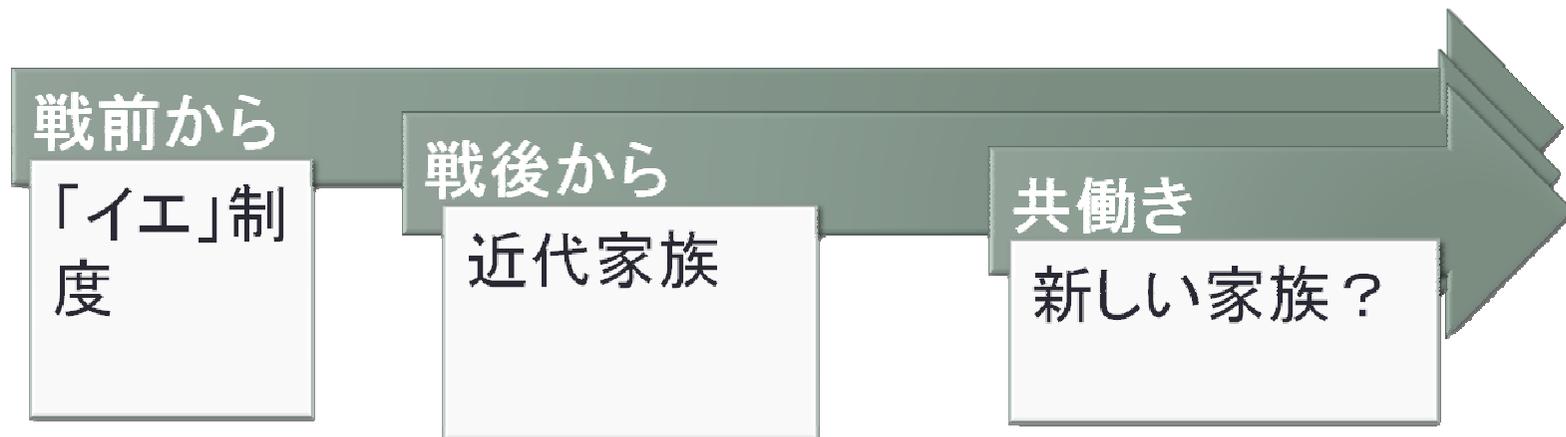
戦後の婚姻件数と婚姻率の年次推移



「結婚しやすい社会」の背景にあるのは 人口ボーナスと高度経済成長



現在の家族は新しい家族か？



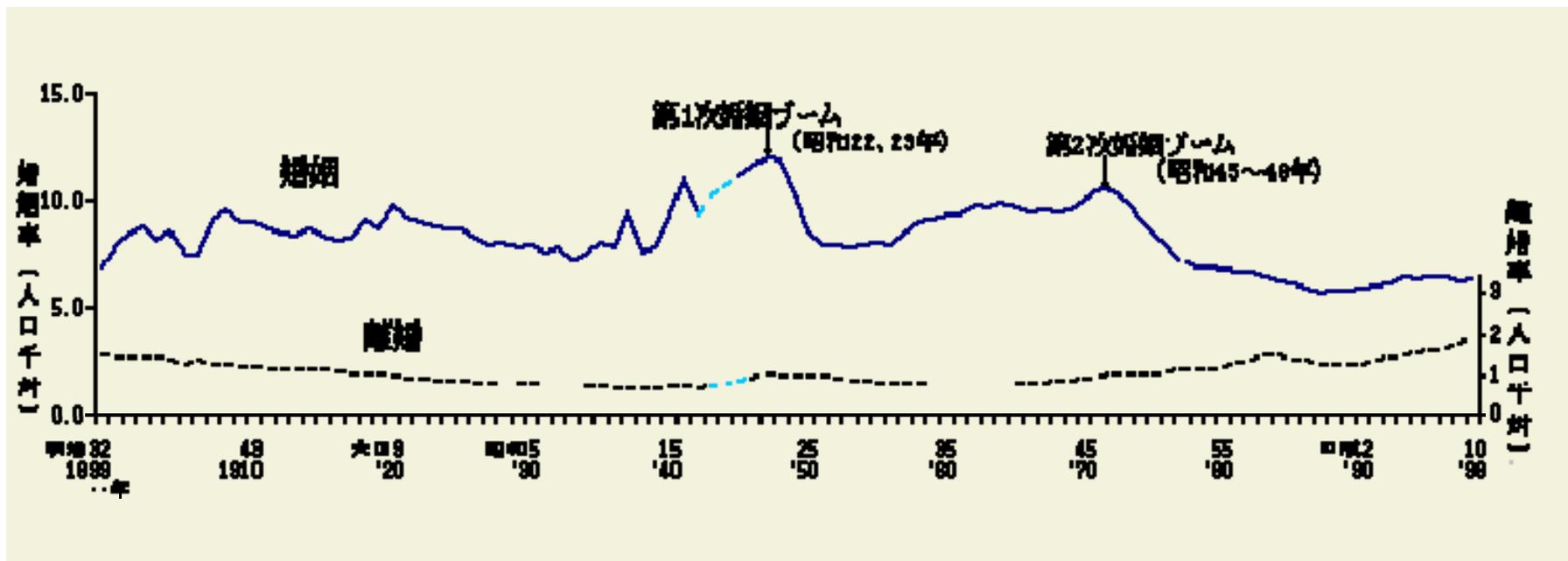
現在の結婚の特徴

- 恋愛が結婚に結び付きにくい
- 子世代よりも親世代の方が一般に社会階層が高い
- 終身雇用、年功序列の崩壊により生活の見通しが立てにくい

→ 結婚しにくい社会

現在はこの前提に立ち、若者の就業支援、出会いサポート業務などが「少子化対策」として行われている。

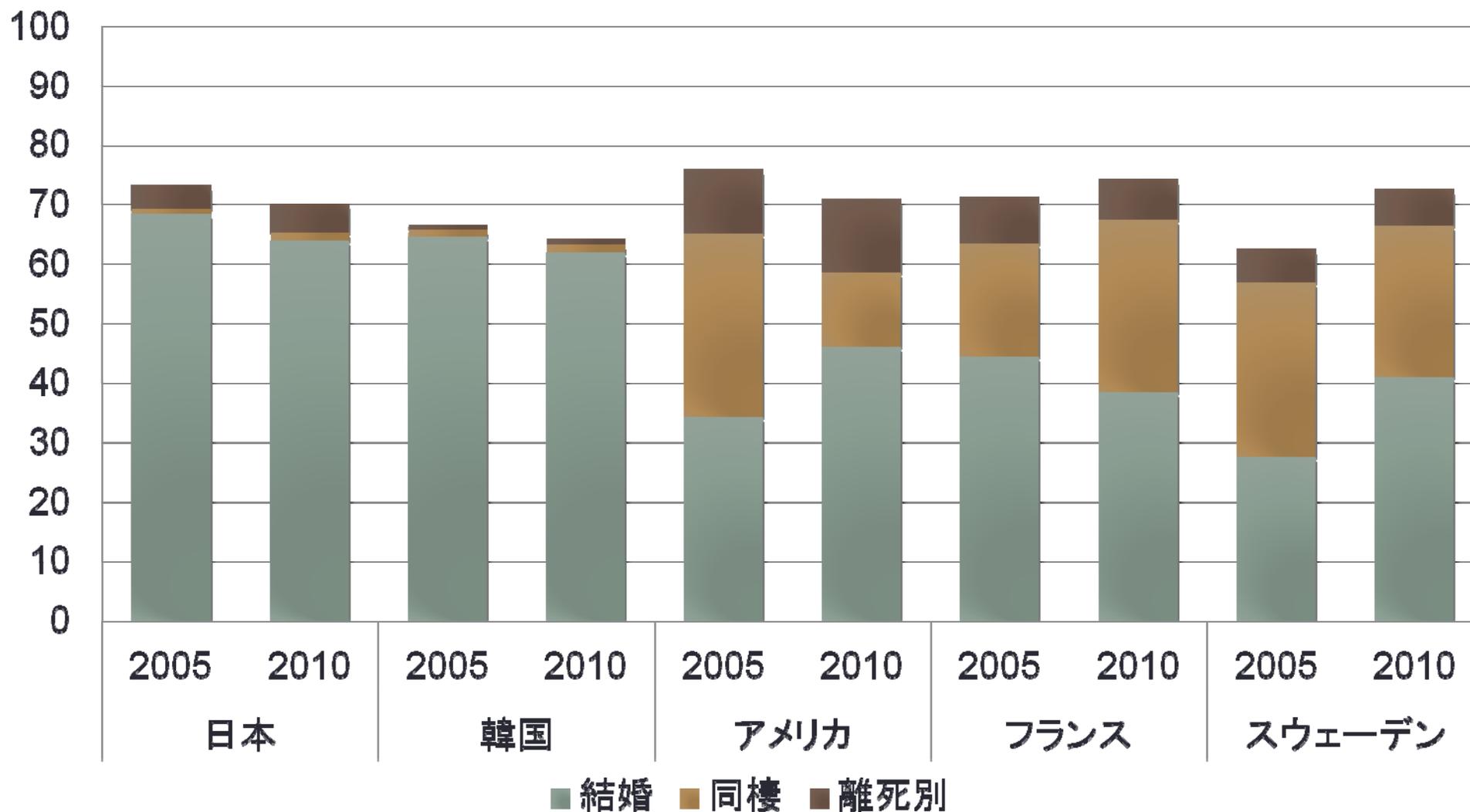
日本は皆婚社会だったといえるのか？



人口動態統計100年の年次推移

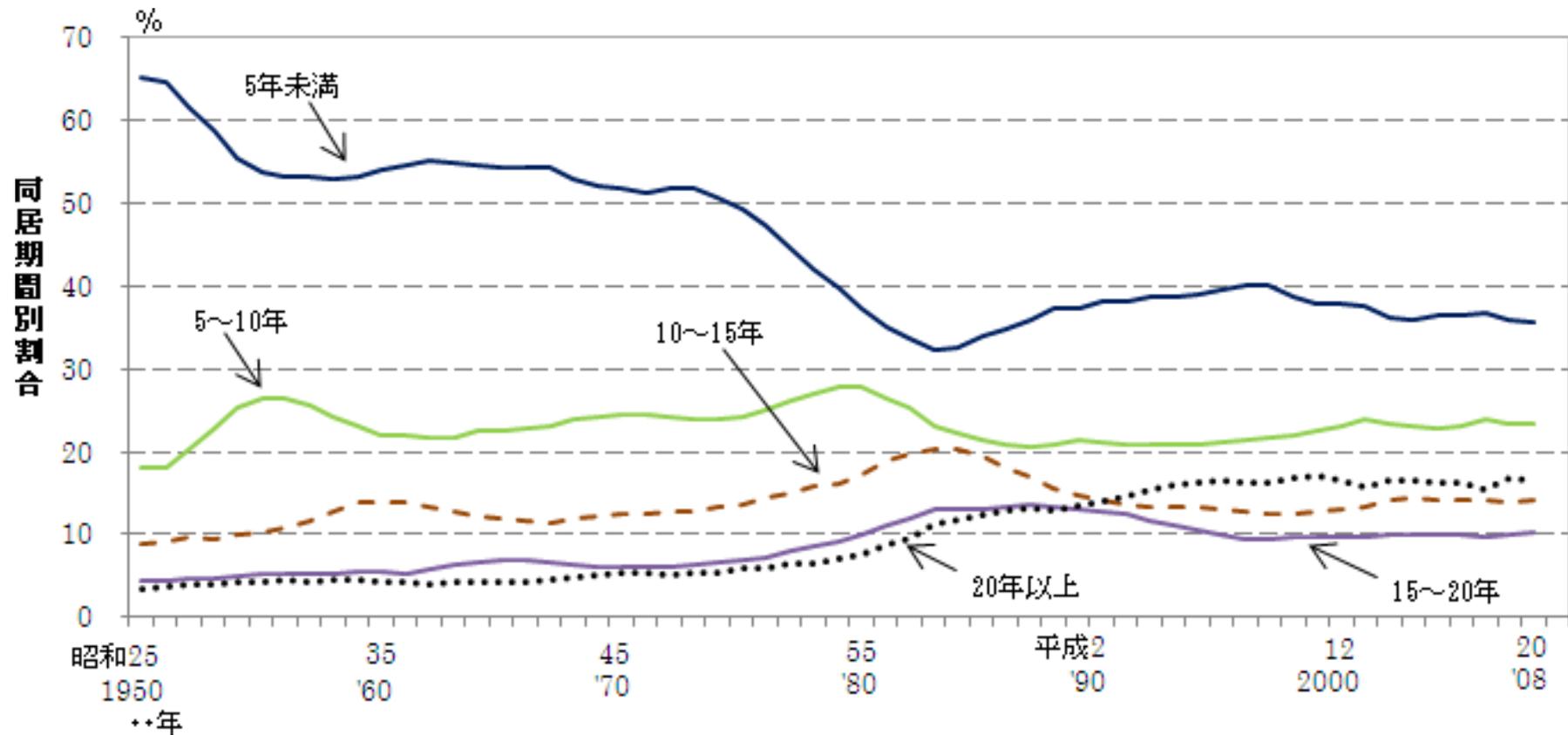
http://www1.mhlw.go.jp/toukei/10nengai_8/hyakunen.html

国別に見た結婚・同棲・離死別の割合



「少子化社会に関する国際調査」(内閣府政策統括官 2011)より作成

同居期間別にみた離婚の構成割合の年次推移 —昭和25～平成20年—



厚生労働省人口動態統計特殊報告平成21年度「離婚に関する統計」の概況